

講義ユニット名	消化器		所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅰ
講義ユニット 責任者	おか しろう 岡 志郎	所属	消化器内科	
講義ユニット コーディネーター	むらかみ えいすけ 村上 英介	所属	消化器内科	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概 要	消化器病学は、消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）、肝臓、胆嚢、膵臓などの解剖、機能、疾病に関して学ぶ学問である。腫瘍性疾患（胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌など）、炎症性疾患（ウイルス性肝炎、炎症性腸疾患、膵炎など）、感染性疾患、代謝性疾患等、当分野の扱う疾患は非常に多岐にわたる。日常診療においても、消化器疾患に遭遇する機会は多く、これらについて基本的な知識を獲得し、内科的・外科的治療法につき、習熟しておくことは極めて重要である。本ユニットの講義では、消化器疾患への理解を深め、基本的知識を習得し、将来の臨床に役立てることを目標とする。			
講義ユニットの 到達目標	各消化器官の位置、形態と関係する血管を図示できる。 腹膜と臓器の関係を説明できる。 食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。 消化管運動の仕組みを説明できる。 消化器官に対する自律神経の作用を説明できる。 肝の構造と機能を説明できる。 胃液の作用と分泌機序を説明できる。 胆汁の作用と胆嚢収縮の調節機序を説明できる。 膵外分泌系の構造と膵液の作用を説明できる。 小腸における消化・吸収の仕組みを説明できる。 大腸における糞便形成と排便の仕組みを説明できる。 主な消化管ホルモンの作用を説明できる。 消化管の正常細菌叢（腸内細菌叢）の役割を説明できる。 食思(欲)不振の原因と病態生理を説明できる。 食思(欲)不振をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 食思(欲)不振がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 腹痛の原因と病態生理を説明できる。 腹痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 腹痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 悪心・嘔吐の原因と病態生理を説明できる。 悪心・嘔吐をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 悪心・嘔吐がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 吐血・下血の原因と病態生理を説明できる。 吐血・下血をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 吐血・下血がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 便秘・下痢の原因と病態生理を説明できる。 便秘・下痢をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 便秘・下痢がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 黄疸の原因と病態生理を説明することができる。 黄疸をきたす疾患を列挙し、診断のポイントを説明することができる。 黄疸の治療について、病態別に説明することができる。 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤の原因と病態を説明できる。 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤をきたす疾患を列挙し、診断のポイントを説明することができる。 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤がある患者の治療について、病態別に説明することができる。 肝腫大をきたす疾患を列挙し、その病態を説明することができる。 肝腫大のある患者における医療面接、診察と診断の要点を説明できる。 代表的な肝炎ウイルスの検査項目を列挙し、その意義を説明することができる。			

消化器関連の代表的な腫瘍マーカー (α -fetoprotein <AFP>、carcinoembryonic antigen <CEA>、carbohydrate antigen <CA> 19-9、protein induced by vitamin K absence or antagonists <PIVKA>-II) の意義を説明することができる。

消化器系疾患の画像検査を列挙し、その適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。

生検と細胞診の意義と適応を説明できる。

腹水検査の目的と適応を説明し、結果を解釈することができる。

内視鏡機器の種類と原理を説明できる。

内視鏡検査法の種類を列挙し、概説できる。

消化器内視鏡検査から得られる情報を説明できる。

内視鏡を用いる治療を概説できる。

超音波機器の種類と原理を説明できる。

超音波検査法の種類を列挙し、概説できる。

主な疾患、病態のエコー像を概説できる。

超音波を用いる治療を概説できる。

超音波の生体作用と安全性を説明できる。

超音波造影法を説明できる。

食中毒の病因、症候と予防法を説明できる。

食道・胃静脈瘤の病態、内視鏡分類と治療を説明することができる。

胃食道逆流症(gastroesophageal reflux disease <GERD>)と逆流性食道炎の病態生理、症候と診断を説明できる。

Mallory-Weiss症候群を概説できる。

胃潰瘍、十二指腸潰瘍(消化性潰瘍)の病因、症候、進行度分類、診断と治療を説明できる。

*Helicobacter pylori*感染症の診断と治療を説明できる。

胃ポリープの病理と肉眼分類を説明できる。

急性胃粘膜病変の概念、診断と治療を説明できる。

急性胃腸炎、慢性胃炎を概説できる。

胃切除後症候群の病態生理を説明できる。

機能性消化管障害(機能性ディスぺプシア(functional dyspepsia <FD>))を説明できる。

肥厚性幽門狭窄症を概説できる。

急性虫垂炎の症候、診断と治療を説明できる。

腸閉塞とイレウスの病因、症候、診断と治療を説明できる。

炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・Crohn病)の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

痔核と痔瘻の病態生理、症候と診断を説明できる。

機能性消化管障害(過敏性腸症候群)を概説できる。

腸管憩室症(大腸憩室炎と大腸憩室出血)を概説できる。

薬物性腸炎を概説できる。

消化管ポリポースを概説できる。

大腸の主な先天性疾患(鎖肛、Hirschsprung病)を概説できる。

腸重積症を概説できる。

便秘症、乳児下痢症を説明できる。

感染性腸炎を概説できる。

虚血性大腸炎を概説できる。

急性出血性直腸潰瘍を概説できる。

上腸間膜動脈閉塞症を概説できる。

消化管神経内分泌腫瘍(neuroendocrine tumor <NET>)を概説できる。

消化管間質腫瘍(gastrointestinal stromal tumor <GIST>)を概説できる。

胆石症の病因、症候、診断と治療を説明できる。

胆嚢炎と胆管炎の病因、病態生理、症候、診断、合併症と治療を説明できる。

胆嚢ポリープを概説できる。

先天性胆道拡張症と膵・胆管合流異常症を概説できる。

A型・B型・C型・D型・E型肝炎の疫学、症候、診断、治療と予後を説明することができる。

アルコール性肝障害を概説できる。

脂肪性肝疾患を概説できる。

自己免疫性肝炎を概説できる。

講義ユニットの到達目標	原発性胆汁性胆管炎と原発性硬化性胆管炎の症候、診断、治療と予後を説明することができる。 薬物性肝障害を概説できる。 急性肝炎、慢性肝炎の定義を説明できる。 急性肝不全の概念、診断を説明できる。 肝硬変の病因、病理、症候、診断と治療を説明できる。 肝硬変の合併症（門脈圧亢進症、肝性脳症、肝癌）を概説できる。 肝膿瘍の症候、診断と治療を説明することができる。 急性膵炎（アルコール性、胆石性、特発性）の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 慢性膵炎（アルコール性、特発性）の病態生理、症候、診断、合併症と治療を説明できる。 自己免疫性膵炎を概説できる。 腹膜炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。 ヘルニアの概念、病態（滑脱、嵌頓、絞扼）と好発部位を説明できる。 鼠径部ヘルニアの病因、病態、診断と治療を説明できる。 消化器系腫瘍の診断・治療を概説できる。：食道癌、胃癌、大腸ポリープ、大腸癌、胆嚢・胆管癌、原発性肝癌、膵内分泌腫瘍、嚢胞性膵腫瘍、膵癌 食道癌の病理所見、肉眼分類と進行度分類を説明できる。 食道癌の症候、診断、治療と予後を説明できる。 胃癌の疫学、病理所見、症候、肉眼分類と進行度分類を説明できる。 胃癌の診断法を列挙し、所見とその意義を説明できる。 胃癌の進行度に応じた治療を概説できる。 大腸癌の病理所見、診断、肉眼分類と進行度分類を説明できる。 大腸癌の症候、診断、治療を説明できる。 胆嚢・胆管癌・乳頭部癌の病理所見、症候、診断と治療を説明できる。 原発性肝癌、転移性肝癌の病因、病理所見、症候、診断と治療を説明することができる。 膵癌の病理所見、症候、診断と治療を説明できる。 嚢胞性膵腫瘍の分類と病理所見を説明できる。 腹膜中皮腫、消化管間質腫瘍<GIST>、消化管カルチノイドを概説できる。 ヘモクロマトーシスを概説できる。 Wilson病を概説できる。 主な原虫感染症（アメーバ赤痢）を説明できる。 主な寄生虫感染症（回虫症、アニサキス症、吸虫症）を説明できる。
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。オンライン参加の出席の確認方法は別途通知する。 3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。 要件に抵触した学生についてはユニットの教務担当教員が当該学生と面談を行い、チューターとも相談した上で受験資格について判断することとする。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格点は60点とする。
予習・復習へのアドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努める事。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 「カラー版 消化器病学 基礎と臨床」西村書店 各講義ごとに必要に応じてプリントを配布する